

令和3年度中部地区スモン患者の実態

小池 春樹（東海国立大学機構名古屋大学）
古川 宗磨（東海国立大学機構名古屋大学）
毛利 尚裕（東海国立大学機構名古屋大学）
深見 祐樹（東海国立大学機構名古屋大学）
勝野 雅央（東海国立大学機構名古屋大学）
関島 良樹（信州大学医学部）
嶋田 豊（富山大学学術研究部医学系）
菊地 修一（石川県健康福祉部）
濱野 忠則（福井大学医学部附属病院脳神経内科）
木村 暁夫（東海国立大学機構岐阜大学神経統御学講座脳神経内科学分野）
溝口 功一（国立病院機構静岡医療センター）
橋本 修二（藤田医科大学医学部衛生学講座）
鷲見 幸彦（国立長寿医療研究センター）
寶珠山 稔（東海国立大学機構名古屋大学大学院医学系研究科）
古川 大祐（愛知県保健医療局健康医務部）
田中千枝子（日本福祉大学社会福祉学部）
齋藤由扶子（国立病院機構東名古屋病院脳神経内科）
西岡 和郎（国立病院機構東尾張病院）
服部 直樹（豊田厚生病院）
南山 誠（国立病院機構鈴鹿病院）
久留 聡（国立病院機構鈴鹿病院）

研究要旨

令和3年度の中部地区スモン患者の現状を検診結果およびスモン現状調査個人票をもとに、調査・分析し、その実態を検討した。中部地区検診で調査を受けたスモン患者の総数は67名（男性22名、女性45名）であり（図1）、昨年（59名）と比較して増加した。11名は保健所または病院で検診を受けたのに対し、17名は往診、39名は電話による検診を受けており、電話検診を受けた患者数は昨年（25名）より増加した。年齢階層別では、65歳以上が66名（99%）、75歳以上が54名（81%）、85歳以上が32名（48%）に達しており（図2）、さらに高齢化がみられた。障害度は極めて重度および重度が32%を占め、障害要因ではスモン単独とするものが17%であったのに対し、スモン＋スモンに関連した併発症としたものが67%と大きく上回っていた。スモンの症状以外に何らかの身体的合併症を99%に認め、白内障、高血圧、脊椎疾患、四肢関節疾患の順に多かったが、特に日常生活に対しては白内障と脊椎疾患と四肢関節疾患が大きな影響を及ぼしていた。本年度は昨年と同様、検診を受けた患者数と検診の形態に大きな変化が見られた。身体的合併症は例年と同様高頻度に見られ、スモン自体の診療と一体となった対策の必要性が示唆された。

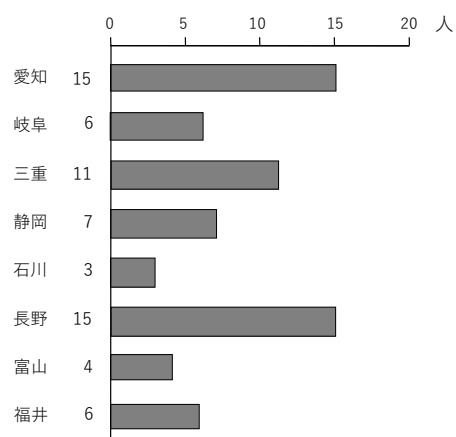


図1 県別の受診者数

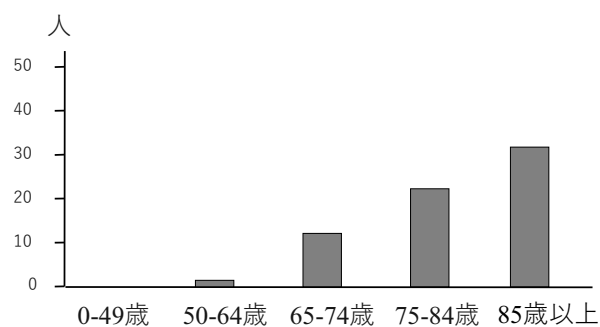


図2 検診スモン患者の年齢構成

A. 研究目的

令和3年度の中中部地区スモン患者の現状を調査・分析し、その実態を検討して把握する。

B. 研究方法

令和3年度の中中部地区スモン患者の現状を検診結果およびスモン現状調査個人票をもとに、中中部地区におけるスモン患者の現状の検討を行った。

C. 研究結果

- (1) 中中部地区検診で調査を受けたスモン患者の総数は67名（男性22名、女性45名）であり、昨年（59名）と比較して増加した。11名は保健所または病院で検診を受けたのに対し、17名は往診、39名は電話による検診を受けており、電話検診を受けた患者数は昨年（25名）より増加した。
- (2) 県別では富山県4名、石川県3名、福井県6名、長野県15名、岐阜県6名、静岡県7名、愛知県15名、三重県11名であった。
- (3) 年齢階層別では、65歳以上が66名（99%）、75歳以上が54名（81%）、85歳以上が32名（48%）に達しており、さらに高齢化がみられた。
- (4) スモン障害度では極めて重度および重度が32%を占め、障害要因ではスモン単独とするものが17%であったのに対し、スモン＋スモンに関連した併発症としたものが67%と大きく上回っていた。
- (5) スモンに関連した何らかの身体的併発症を99%に認めた。内訳としては白内障を70%に、高血圧

を57%に認めた。脳出血・脳梗塞をはじめとする脳血管障害を12%に、不整脈・狭心症をはじめとした心疾患を24%に認めた。また、胆石症・肝炎等の肝・胆嚢疾患を8%に、胃炎・大腸ポリープ等を含めたその他の消化器疾患を24%に認めた。糖尿病は15%、肺気腫・喘息等の呼吸器疾患は19%、腎結石等の腎・泌尿器疾患を33%に認めた。転倒により骨折を起こした患者を28%に認めた。また、腰椎症を始めとした脊椎疾患を有する患者が多く、全体の43%に認めた。膝関節の変形性関節症を始めとした何らかの四肢関節疾患を28%に認めた。錐体外路症状であるパーキンソン症候を5%に、姿勢・動作振戦を3%に認めた。また、胃癌等の悪性腫瘍の既往を8%に認めた。

D. 考察

本年度は昨年と同様、検診を受けた患者数と検診の形態に大きな変化が見られた。身体的併発症は例年と同様高頻度に見られ、スモン自体の診療と一体となった対策の必要性が示唆された。

G. 研究発表

- 1) Koike H, Nishi R, Ohyama K, Morozumi S, Kawagashira Y, Furukawa S, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. ANCA-associated vasculitic neuropathies: a review. Neurol Ther, in press.
- 2) Koike H, Katsuno M. Emerging infectious diseases, vaccines and Guillain-Barre syndrome. Clin Exp Neuroimmunol, in press.

- 3) Koike H, Katsuno M. Paraproteinemia and neuropathy. *Neurol Sci* 2021; 42: 4489-4501.
 - 4) Koike H, Iguchi Y, Sahashi K, Katsuno M. Significance of Oligomeric and Fibrillar Species in Amyloidosis: Insights into Pathophysiology and Treatment. *Molecules* 2021; 26: 5091.
 - 5) Koike H, Katsuno M. The Ultrastructure of Tissue Damage by Amyloid Fibrils. *Molecules* 2021; 26: 4611.
 - 6) Koike H, Katsuno M. The role of macrophages in Guillain-Barre syndrome and chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy. *Neurol Clin Neurosci* 2021; 9: 203-210.
 - 7) Koike H, Okumura T, Murohara T, Katsuno M. Multidisciplinary Approaches for Transthyretin Amyloidosis. *Cardiol Ther* 2021; 10: 289-311.
 - 8) Koike H, Chiba A, Katsuno M. Emerging Infection, Vaccination, and Guillain-Barre Syndrome: A Review. *Neurol Ther* 2021; 10: 523-537.
 - 9) Koike H, Katsuno M. Macrophages and Autoantibodies in Demyelinating Diseases. *Cells* 2021; 10: 844.
 - 10) Koike H, Mouri N, Fukami Y, Iijima M, Matsuo K, Yagi N, Saito A, Nakamura H, Takahashi K, Nakae Y, Okada Y, Tanaka F, Sobue G, Katsuno M. Two distinct mechanisms of neuropathy in immunoglobulin light chain (AL) amyloidosis. *J Neurol Sci* 2021; 421: 117305.
 - 11) Jozuka R, Kimura H, Uematsu T, Fujigaki H, Yamamoto Y, Kobayashi M, Kawabata K, Koike H, Inada T, Saito K, Katsuno M, Ozaki N. Severe and long-lasting neuropsychiatric symptoms after mild respiratory symptoms caused by COVID-19: A case report. *Neuropsychopharmacol Rep*, in press.
 - 12) Ando T, Nakamura R, Kuru S, Yokoi D, Atsuta N, Koike H, Suzuki M, Hara K, Iguchi Y, Harada Y, Yoshida Y, Hattori M, Murakami A, Noda S, Kimura S, Sone J, Nakamura T, Goto Y, Mano K, Okada H, Okuda S, Nishino I, Ogi T, Sobue G, Katsuno M. The wide-ranging clinical and genetic features in Japanese families with valosin-containing protein proteinopathy. *Neurobiol Aging* 2021; 100: 120.e1-120.e6.
 - 13) Yamada S, Hashizume A, Hijikata Y, Ito D, Kishimoto Y, Iida M, Koike H, Hirakawa A, Katsuno M. Ratio of urinary N-terminal titin fragment to urinary creatinine is a novel biomarker for amyotrophic lateral sclerosis. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 2021; 92: 1072-1079.
 - 14) Fukami Y, Iijima M, Koike H, Yamada S, Hashizume A, Katsuno M. Association of serum neurofilament light chain levels with clinicopathology of chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy, including NF155 reactive patients. *J Neurol* 2021; 268: 3835-3844.
 - 15) Oishi M, Mukaino A, Kunii M, Saito A, Arita Y, Koike H, Higuchi O, Maeda Y, Abiru N, Yamaguchi N, Kawano H, Tsuike E, Tanaka T, Matsuo H, Katsuno M, Tanaka F, Tsujino A, Nakane S. Association between neurosarcoidosis with autonomic dysfunction and anti-ganglionic acetylcholine receptor antibodies. *J Neurol*. 2021; 268: 4265-4279.
 - 16) Sommer C, Carroll AS, Koike H, Katsuno M, Ort N, Sobue G, Vucic S, Spies JM, Doppler K, Kiernan MC. Nerve biopsy in acquired neuropathies. *J Peripher Nerv Syst* 2021; 26 Suppl 2: S21-S41.
 - 17) Nishi R, Koike H, Ohyama K, Fukami Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. Association Between IL-5 Levels and the Clinicopathologic Features of Eosinophilic Granulomatosis With Polyangiitis. *Neurology* 2021; 96: 226-229.
- H . 知的財産権の出願・登録状況
なし
- I . 文献
- 1) 小池春樹ほか：令和元年度中部地区スモン患者の実態，厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）スモンに関する調査研究班・令和2年度統括・分担研究報告書，P60-63，2021.
 - 2) 小池春樹ほか：令和元年度中部地区スモン患者の

実態，厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）スモンに関する調査研究班・令和元年度統括・分担研究報告書，P63-66，2020.

3) 小池春樹ほか：平成 30 年度中部地区スモン患者の実態，厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）スモンに関する調査研究班・平成 30 年度統括・分担研究報告書，P65-68，2019.

4) 小池春樹ほか：平成 29 年度中部地区スモン患者の実態，厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）スモンに関する調査研究班・平成 29 年度統括・分担研究報告書，P63-65，2018.

5) 祖父江元ほか：平成 28 年度中部地区スモン患者の実態，厚生科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）スモンに関する調査研究班・平成 28 年度統括・分担研究報告書，P64-67，2017.